

熊本県での高校生交通安全教育活動 連載:最終回

高校と生徒が主体となった自主活動に向けて

ホンダは平成24年度、行政機関や教育機関と連携し、まず熊本県内の16の高校を対象に高校生交通安全教育活動を展開してきた。その目的は「交通安全社

のべ約1万5400名の高校生に安全教育を実施

3月19日、熊本県熊本市内のホテルで「平成24年度熊本県高校生交通安全教育活動報告会」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部熊本普及ブ



「平成24年度熊本県高校生交通安全教育活動報告会」には県行政関係者や活動に賛同した高校の教職員36名が参加

翔陽高校での平成24年度の活動内容を報告する馬本竜司教諭



「1年を通じて、原付通学者の安全運転意識の向上がみられました。事故件数が減っただけでなく、地域からの苦情も激減しています。また、インストラクターとなって下級生に安全運転を教えたいという生徒が5名もおり、生徒も意欲的になっていくといえます」と馬本教諭は成果を強調した。

活動により、生徒の意識や行動が変化

続いて、熊本県立翔陽高等学校(熊本県大津町)生徒指導部交通安全担当の馬本竜司教諭が同校とホンダによる原付通学者を対象にした交通安全教室(全5回)について報告。

平成25年度の展開について、池田ブロックリーダーは「校内で生徒をインストラクターとして養成し、各高校が自主的に活動できるためのきっかけづくりを行っていきたい」という。既に翔陽高校で3年生の生徒がインストラクターとなって2年生への指導をスタートさせる(下記参照)など、熊本県では学校・生徒が主体となった自主活動の実現に向け、第2ステップに入った。



報告会では参加した教職員によるディスカッションも行われた

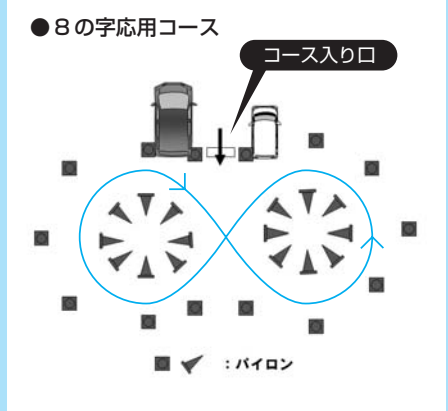


来賓として挨拶を述べる木幡繁嗣・内閣府政策統括官交通安全企画参事官補佐

熊本県立翔陽高等学校・原付通学生実技講習会

翔陽高校では平成24年度に原付通学者(2年生)への実技講習会を5回開催。2月21日には、1年間のまとめと位置つけた第5回目が行われた。

その内容は「8の字応用コース」の体験。校内に設定された図のような8の字コースを原付で走行する。各々が単独で走るのではなく、1台ずつ順々にコース内に入って行く。



コースは最大で8台まで走行可能になっているが、そのためには先にコース内を走行している原付の動きをよく観て、自分の動き方を考える必要がある。どうすれば8台でスムーズに8の字コースを走行できるのか、生徒同士で考え、思いやりを持って、ゆずり合いを実践してもらうことがねらいである。



コースの入り口は見通しが悪くなっているため、進入時は十分な安全確認が必要となる

1台ずつコースに進出し、8台での走行をめざす。途中で誰かが地面に足を付いたら最初からやり直し。そのため、スムーズに走行できるように生徒同士で相談



養成講習では生徒たちでコース設定などができるようにHondaのインストラクターが指導

3月26日、29日には平成25年度の活動に向け、生徒指導員の養成講習を実施。そして4月4日、その生徒指導員5名(3年生)が新規原付通学者(2年生)に対し、座学と実技による指導を行った(写真参照)。生徒指導員の一人、濱田智子さんは「私自身も実技講習会に参加して、自分の運転技術を過信していることに気づきました。そうしたことや、原付で通学している時に感じた危険を後輩に伝えたいと思い、指導員になったというわけです。後輩にアドバイスする時は、自分の体験を交えながらわかりやすく説明するように心がけました」と感想を話してくれた。

翔陽高校では、先輩から後輩へ安全運転への思いを継承するためのサイクルが出来上がりがつつある。



四輪車の間を右折する時は、死角を走ってくる二輪車や自転車がないか確認することを伝える



発進・停止では2年生の一人ひとりの運転を見ながら、生徒指導員が正しいブレーキ操作をアドバイス



四輪車の死角について解説する生徒指導員